vol. 79　本に書かれているようで書かれていない、日常のふとした疑問におこたえします　Oct2017

2017 年グレー本の改訂で思うこと

（顧問のたわ言）

■グレー本の改訂

木構造業界の今年の注目は、「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」いわゆるグレー本が改訂されたことです。新グレー本が発刊された後、説明会や勉強会が実施され、構造計算ソフトの改訂バージョンやマニュアル等も出揃った感じです。それが、設計者にどれだけ認知されているかはわかりませんが、情報としては十分にあり、少なくとも構造設計事務所では理解されている時期にきています。

■改訂のポイント

- 土台等の横架材のめり込み検討は短期を含めること。
- 筋かいの留付け方法について配慮すること。
- 小屋組み内外部への耐力壁設置指導。
- 水平構面の計算省略の廃止。など

改訂の主なポイントは以上ですが、何よりも**「国土交通省監修」**が復活したことが大きいですね。この語句があるかないかでは威厳性が違い、構造計算の拠り所、バイブル感がいっそう強まりました。審査機関ともこれをベースに共通言語で対話できる利点も大きいです。

■意匠設計者にとっての改訂

木構造業界ではそんなことで騒がれていますが、意匠設計の方に「構造計算にこんな改定があったんですよー」と言っても何処吹く風です。まー、仕方がないことかもしれませんね。

「めり込み」や「耐力壁」のことは、構造計算側でなんとかすることで、「吹抜が厳しくなる」ことにしても、プランニングをした後に、餅は餅屋の構造計算屋に実現可能な方法を提案してもらう方が無駄がなく、もしダメならどこまで OK かを聞きながらプランニングするのが順当な手段でしょう。

■構造対応プランニングガイドブック

意匠設計事務所や住宅会社の設計担当者に「耐震等級 2、3 を取得できるプランニングガイドはないのか？」とよく聞かれます。何に気を付けて、どの程度が限界なのかの目安や事例を書いた意匠設計者向けのガイドですね。ある程度のことを頭にいれながらプランニングすることで、やり直しを減らしたいということでしょう。教科書にもなり、グレー本を読みこなしてプランニングするような面倒な工程は省けますからね。でも、確かにそのようなガイドブックは見当たりません。あれば売れるでしょう。

■真の意匠設計とは

しかし、私、個人的にはそのようなガイドブックは無い方がいいと思うのです。法規や基準に抵触しないように考えながらプランニングすることは、確かにスムーズに業務が進んで会社としては有効なことだと思いますが、画一的な発想になり、プランニングのチャレンジ性は無くなるのではないでしょうか。優秀なプランナー（意匠設計者）とは何なのか？構造的にも法規的にも問題のないプランを一発で作れる人なのか？少々違うような気がするのです。

■今後の意匠と構造の関係

と思っているものの、世の中は、構造計算ソフトが年々改良され、使いやすく、グレー本準拠、特殊な斜め壁や分割検討もやってくれます。構造に詳しくない人でも構造計算をしながらのプランニングも可能となり、チャレンジ的なプランも検証できる領域に達しつつあります。「餅は餅屋」だったはずが優秀な機械（ソフト）が出てきたことで自宅で簡単に美味しい餅が作れるようになってきたのです。グレー本の改訂で、曖昧だった基準が数値や式として明確になり、それは同時にプログラムソフトに組込むことができ、人の判断はいらなくなるということです。

分業化され続けてきた「意匠」と「構造」は、「兼業化」されて行くような気がします。

TEC branch は HP にて連載中です。
答えてほしい疑問などをお寄せ下さい！
次回は、どこに何が書いてあるの構造計算書
＊プレゼント付き

BX TOSHO株式会社
URL：http://www.tosho-engineering.co.jp
〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-20-8 BENEX S-3ビル2階　TEL：045-534-7500　FAX：045-534-7501